

海に、空に、放射能を放出しないで！

九万人の署名を政府に提出



再処理工場はプルトニウムを取り出す工場です。

青森県六ヶ所村の核燃料再処理工場は「一日で、一般原発の一年分の放射能」をまき散らします

○岩手の漁業者と消費者は立ち上がりました
岩手の漁業者と消費者は安全な海産物を送り続けるために立ち上がりました。

○三陸のワカメやホタテを守りたい。
三陸の海のワカメやホタテ、アワビなどは東京はじめ日本全国に出荷されており。私たち岩手の誇りです。

○下北の海が危ない
原発も大型化学工場もない清澄な「三陸の海」の、北と南の「下北の海」に放射能が流され始めました。

総理大臣・経産大臣宛 要請事項

- 一、海に、空に、放射能(放射性物質)を放出しないこと。
- 二、核燃料再処理工場の廃水・排気は、放射能除去装置で放射能を取り除いたのちに放出すること。

取り扱い団体 三陸の海を放射能から守る岩手の会
ほか市民団体多数



本日政府に署名簿を提出。
私たち「三陸の海を放射能から守る岩手の会」が提起した『海に、空に放射能を流さないことを求める署名』は、「岩手の会」集約分が七万筆を超え、「いわて生協」集約分も二万筆を超えました。五日、参議院議員会館において政府に提出します。



みんなで、命を守るために声をあげましょう

三陸の海を放射能から守る岩手の会 チラシ

2007年11月5日発行

623ベクレルのトリチウムが流された



放射能に汚染されたものを食べたいと思う人はいない。人間の体内に摂取された放射能は微量でも細胞に影響を与え、特に胎児や成長期の子どもには大変危険です。

この様な放射能を垂れ流すことを認める権限は誰にもないはず。国民が知らないうちに、巨費を投じて海に空に放射能を流す工場が本格操業に入ろうとしています。皆さん。放射能垂れ流しをやめさせましょう。

再処理工場は「発電所」ではありません。

青森県六ヶ所再処理工場は、全国の原子力発電所の使用済み核燃料からプルトニウムを取り出す化学工場です。再処理工場は、発電施設ではないので、稼働しなくても発電量に影響はありません。プルトニウムは猛毒であり、原爆の原料にもなります。急いで取り出す合理的な理由は何もありません。

タンクハコ杯以上もの廃液が流された

昨年の三月以来アクティブ試験が開始され現在第四ステップに入り、約二三〇トンもの使用済み核燃料が裁断され、プルトニウムが取り出されています。

海や空に、放射性物質であるトリチウムやクリプトン八五が断続的に放出されています。海への廃液は、七月までに六百リタンク七〇杯以上が流されました。(株)日本原燃は「海水で希釈されるから大丈夫」などと言っています。海藻や海底土に蓄積され半永久的に存在し続けます。

危険な高レベル放射性廃液が溜まっている。

六ヶ所工場には、使用済み燃料裁断処理の結果推定百三十リタンクもの高レベル放射性廃液が溜まり、濃縮工程とガラス固化体への加工を待っています。この高レベル放射性廃液は、そばにいと数秒で死亡するといふ強い放射線を発します。そして高熱を発生し絶えず冷却し攪拌し続けなければ沸騰し漏れ出すという危険な液体です。地震などによる停電は、冷却装置をストップさせるかも知れません。その場合は恐ろしい地球規模の惨事を引き起こす可能性があります。処理工場敷地には二本の断層があり、十勝沖地震クラスの地震が直撃するならば大きな事故になるおそれがあります。

放射能除去装置をつけよ。放出放射性物質のかなりの部分はトリチウムとクリプトンです。この二つの核種については、排出する前なら分離・除去し環境に出さない技術がすでに完成しています。

「六ヶ所・尾駁(おぶち)沼にトリチウム/青森県・原燃が報告」 10月13日青森県の新聞各紙報道

再処理工場に近接する尾駁沼は海水の流入する汽水湖です。12日開催された青森県環境放射線等監視評価会議で、県と原燃がこの沼の2地点から4月17日に採取した水の放射能検査で、「1リタンクあたり2〜3ベクレルのトリチウムを検出した」という報告がありました。これは、自然湖の2〜5倍です。このトリチウムは、工場の排気筒から降下して沼の水に溶けたか、あるいは、3km沖合いの排出口から沿岸に逆流して入り込んだのかもしれませんが。百年間はベータ線を出し続け、水素と全く同じ性質で生物の体に入り込むトリチウムの害が心配されます。ヨウ素、プルトニウムなど他の放射能はどうなっているのでしょうか。注視していく必要があります。

再処理工場からの放射性廃液、排気はすべて、一般原燃と同じレベルまで取り除くべきだと訴えます。

放射能を流すな！
各所で署名始まる

「放射能を流すな！」という署名は多くの市民団体や、事実を知った個人で取り組まれています。

漁業者と消費者の運動

宮古市重茂(おもえ)漁協など三陸沿岸六漁協と全国六消費団体の署名も、八月以来ネットワークを組んで力強く取り組まれています。一月に提出の予定です。

サーファーによる運動

サーフィン愛好者の団体「サーフライダーファウンデーション」は、八月に六ヶ所工場調査団を派遣し「海に放射能を流すな」という署名を開始しました。

国民の運動に

今回の私たちの「九万の署名」を突破口に、広範な国民の署名を集め、是非とも放射能から海や空、大地を守りましょう。